

Next ヒライ信

VOL.3
2018.2月
第222号



がくしゅう 楽習塾 塾長 平井 たかお 幸雄

hiraisin@par.odn.ne.jp

平成の百人一首（ヒライ流）その①

落語「千早ふる」を稽古している。隠居が百人一首の短歌にいい加減な解釈を加える癖である。百人一首を題材としたパロディや珍解釈は江戸中期に盛んに行われた。そこで、百人一首をヒライ流に現代版に替え歌（パロディー・もじり・語呂合わせ）してみた。まずは20首まで・・・

元歌

001 天智天皇 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ

002 持統天皇 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山

003 柿本人麻呂 あしびきの 山鳥の尾の しだり尾のながながし夜を ひとりかも寝む

004 山部赤人 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪はふりつつ

あきらめた 天地転倒
借りほどつらい
ものはなし
返す当てなく
ついに返えせず

酔いすぎて じっと転倒
何が何だか
わからない
転ぶホステス
恥をかく山

足を引き 柿本人まね
山道登る
しんがりを
なかなか着かぬ
一人かもねん？

パソコンで 山部素人
ヤフオク使い
買ってみる
買えぬ高値に
欲は張りつつ

ヒライ流にしつけ

借りるといのは負い目になる。貸す立場になりたいものだが・・・人生の貸借対照表をつくってみよう

酒による失敗を二度としないように反省するが、再び繰り返すのはなぜ？ 客だけでなくホステスまでが・・・

歳をとり、足腰が衰えた。孫と高尾山を登ったが、かなわない。いつも殿（しんがり）で、一人取り残される・・・

ネットを使い、ヤフーオークションに挑戦してみたが、最初は安値で、だんだん値が吊り上がって、最後は高値で・・・

005 猿丸大夫 奥山に もみぢ踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき

006 中納言家持 かささぎの 渡せる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける

007 安倍仲磨 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも

008 喜撰法師 わが庵は 都のたつみ しかぞすむ 世をうち山と 人はいふなり

奥さんに 去る丸太夫
モミ手で無心
泣き顔で
小遣いほしい
亭主悲しき

若いぞと 中納言家無
若さひけらす
この髪
白きを見れば
歳ぞ老けにけり

おれの腹 安倍神戸
上から見れば
さすがなり
見事にメタボ
出でしつきでた

わが家は 貴賤老師
都の西の
天狗住む
世を田舎だと
人は言うなり

年金生活で、収入は一定だが、支出は一定とは限らない。不足分は、奥さんに無心するしかないが・・・

若さを保つために、髪を染めるが、そのうち白髪がのぞく。誤魔化しても・・・

太りすぎに注意し、体重を測っているが、出っ腹で秤の目盛りが見えない

わが家は東京都であるが、西の外れの八王子・高尾山の麓。都会なのか田舎なのか？ とかいなかか・・・？



009 小野小町 花の色は 移りけりな いたづらに わが身 世にふる ながめせしまに



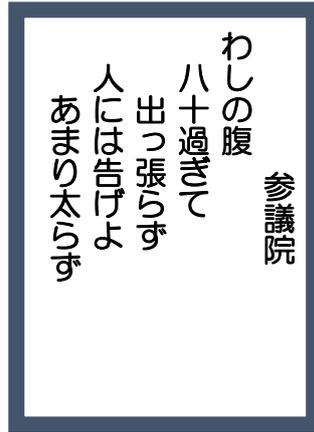
髭剃りをしながら鏡を見ると、おのれの顔のがだんだん垂れ下がってきている。だらしない顔に変貌・・・

010 蝉丸 これやこの 行くも 帰るも 別れては 知るも 知らぬも あふ坂の関



ここ最近電車に乗っていて、周りの人を見ると、みんなスマホをいじっているが・・・

011 参議院 わたの原 八十島 かけて 漕ぎ出でぬと 人には 告げよ あまのつり舟



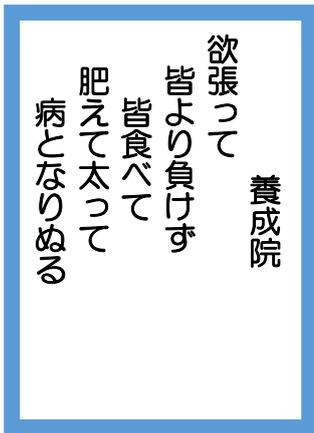
俺の腹は出っ張っていないよと、人に出しやばって自慢したい。見よ！この老体を・・・

012 僧正遍路 天つ風 雲のかよひ路 吹きとちよ をとめの 姿 しばしとどめむ



女性は化粧をして化ける。美しい乙女の姿を、いつまでもとどめておきたいと、涙ぐましい努力をしている・・・

013 陽成院 つくばねの 峰より 落つる みなとの川 こひそつ もりて 淵となりぬる



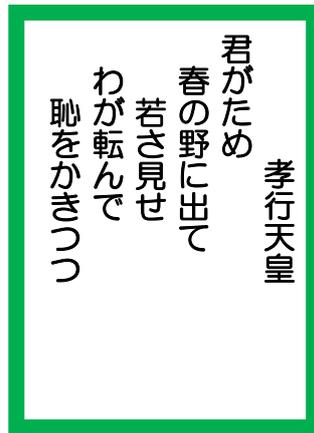
欲張りすぎて、何でもかんでも、自分のものにしようとして・・・食欲を満たしても、体にはよくない

014 河原左大臣 陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに 乱れそめにし われならなくに



酔って話がしどろもどろ、足が千鳥足ならいいが、乱れて、人に喧嘩を売ったり、暴力を振るうようになると・・・

015 光孝天皇 君がため 春の野に出で 若さ見せ わが転んで 恥をかきつつ



俺はまだ若いぞと、張り切り過ぎて、すってんころりん、いつまでも若いと思うな足と腰・・・

016 中納言行平 立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む



孫がだんだん大きく成長してくると、爺・婆には手に負えない。来るのは楽しみだが、帰るとホッとすると・・・

017 在原業平朝臣 ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは



知らないことを知らないといえよいいものを、知ったかぶりをして、失敗をすることがある・・・知ったかぶらない。

018 藤原敏行朝臣 住の江の 岸による波 よるさへや 夢の 通ひ路 人もうらやむ



年寄りに迫ってくる老化にアンチエイジングし、少しでも長生きし、夢を実現したい。これに人もうらやむ・・・

019 伊勢 難波湊 みじかき葦の 心しの間も あはでこの世を 過ぐしてよとや



私は短足だが、これでも陸上競技をやり、走力には自信があった。しかし最近では歩幅が狭くなり歩みが遅い・・・

020 元良親王 わびぬれば 今とは同じ 難波なる みをつくしても あはむとぞ思ふ



病気は早期に発見し早期に治療し、長引かせない方がよい。医術を尽くしても、健康寿命を延ばそう・・・